

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会がクラウドファンディング開始 —世界遺産富士山を活用した研究がピンチに！測候所存続のために力を—

認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会（東京都千代田区）は、2020年6月26日よりクラウドファンディングプラットフォーム CAMPFIRE にて「世界遺産富士山を活用した研究がピンチに！測候所存続のために力を」のプロジェクトを開始しました。

クラウドファンディングのページ <https://camp-fire.jp/projects/view/292580>



クラウドファンディングの概要

富士山は日本人にとって象徴的な意味をもつ山であり、かつ自然の厳しさと壮大さを教えてくれる場所でもあります。旧富士山測候所は、明治時代から関係者の情熱により、日本最高地点での気象観測を通して人々の安全な生活に貢献してきました。

しかし、旧富士山測候所では気象庁の有人気象観測が 2004 年に終了し、無人化されました。この貴重な施設を活用し、温室効果ガス、越境大気汚染などの観測を行うために、研究者が中心となり NPO 法人富士山測候所を活用する会を立ち上げました。毎年、夏季の7月と8月の2ヶ月間は、延べ400人を超える研究者・学生に利用されており、今年で14年目を迎えました。

富士山頂は夏季でも過酷な環境ですが、研究の舞台となる旧測候所内では三密環境を避けられないことから、利用者の命を守るために、今年の夏季観測を断念せざるを得ない状況に追い込まれました。気象庁の有人観測終了のときも東日本大震災のときにも、研究者が力を合わせて凌ぎできましたが、今回は夏季観測を行うことができず、力尽きそうな状況です。

なぜ、コロナでピンチなのか

最も大事な収入源となる夏季観測が中止となり、その収入が断たれました。非営利活動法人ゆえに内部留保もなく、このままでは解散の危機に直面しています。山頂ではいまなお自動観測装置が動いており、10年近く連続観測を行なっている温暖化ガスの観測装置の点検や充電などが必要となっていますが、そのための資金がない状態です。

研究の中止で失われるもの

測候所は国立公園の中に位置するため、一度潰れると再建は不可能です。日本最高点だからこそ行える凄い研究が、もう二度と出来なくなります。これが打ち切られることは、国内外の研究者にとっての損失だけではなく、日本の研究行政に対する世界の信用の低下を招くとともに、歴史的建造物に対する敬意の喪失にもつながることが懸念されます。

マスコミの皆さまへのお願い

マスコミの皆様におかれましては、本 NPO のこの極めて厳しい窮状をご理解いただき、1世紀近く前に、野中到の支持者が「富士山巔の観象台」のパンフを作って応援した支持者を取り上げてくださったように、是非とも広くご周知のほどをお願いします。